

新型コロナウイルスに関する農林水産省対策本部（第17回） 概要

日時：令和2年6月17日(水) 15時10分～15時40分

場所：農林水産省 講堂

出席者：江藤大臣、伊東副大臣、加藤副大臣、農林水産審議官、官房長、総括審議官、総括審議官（国際）、危機管理・政策立案総括審議官、統計部長、報道官、消費・安全局審議官、食料産業局長、生産局長、経営局長、農村振興局長、政策統括官、農林水産技術会議事務局長、林野庁長官、水産庁長官、林野庁次長、北海道農政事務所長、東北農政局長、関東農政局長、北陸農政局長、東海農政局長、近畿農政局長、中国四国農政局長、九州農政局次長

内容：

1 本部長御発言（大臣）

本日、150日間という通常国会の最終日を迎えているが、この間、新型コロナウイルスの発生など国民生活に甚大な影響が及んだ。

このような厳しい状況の中で、当省から提出した4つの法案が成立するとともに、令和元年度補正予算、当初予算、更にはコロナ対策のための第1次・第2次補正予算も成立を見ることができた。

国民生活にとって、まだまだ大変な時期は続くが、まずは、この場を借りて、職員の皆さん方によくがんばってくれたと、お礼を申し上げたい。

この機会に、2つ、職員の皆さんにお願いがある。

一つは、コロナ対策。

緊急事態宣言は解除されたものの、農林水産業や飲食業の需要回復には相当の時間がかかる。国民生活にとって、なくてはならない農林水産業や食品関連産業を守り抜くために、今回措置した支援策の内容をしっかりと現場にお届けし、迅速な執行につなげることが重要である。経済活動の正常化まで皆さんの不断の努力をお願いする。

一方で、移動制限が解除されていく中で、職員一人一人が、新しい生活様式の中で、感染防止の自覚を持つことが更に重要になる。毎日の体温計測、「人との距離の確保」「手洗い」などの基本的な行動を徹底してほしい。

二つ目。いよいよ梅雨と台風の季節を迎えるので、予防減災と、コロナ禍での災害発生への対応について準備を進めてほしい。昨年の教訓を十分活かしてもらいたい。

国会においては、コロナ禍での避難所の在り方等が議論されていたが、いったん災害が発生すれば、避難所の数は、大幅に増加する可能性がある。発災時には、被災自治体との連携、ウェブ会議等を活用した被害情報の収集、迅速な食料支援等を、支障なく円滑に進めていくことが求められる。本省、地方農政局、森林管理局の連携をしっかりと図り、農林水産省の職員が一丸となって取り組むように。

それからもう一つ付け加える。少しずつ海外との人の交流も再開されつつある。ASFもCSFも世界で猛威を振るっているので、この機会に、入ってくる人数は少ないかも知れないが、いったん入ってきたら大変なことになるという自覚をもう一度持って、水際、検疫体制の強化もしっかりやってほしい。

— プレス退出 —

2 経営継続補助金及び地方創生臨時交付金について 経営局長及び農村振興局長から説明

3 その他

<江藤大臣>

新型コロナウイルスの感染拡大については一定の落ち着きを見せ始めており、国会も本日で閉会となる。今後の農林水産省の勤務体制を考えていくうえで、合理的な範囲の中で、テレワークや時差出勤、更には計画的な休暇取得など、感染拡大の防止の観点から、よく考えて運用してほしい。

今回、多くの支援策が準備できたことは良かったが、逆に、色々と支援の対象や要件などが分かりにくくなっているという指摘もある。特に地方農政局においては、現場の方々にしっかりと内容の説明をお願いしたい。特に経営継続補助金については、この機会に、経営体質・経営基盤を強くする意味でも、是非ご活用いただけるよう、現場に対して内容をよく説明いただきたい。

本日で国会は閉じるが、職員の皆さんは本当によくやってくれたと思う。国会閉会中も、まずは自身の健康に留意し、現場の声に精一杯応えてほしい。

<伊東副大臣>

農林漁業者や卸売業者などに向けた新型コロナウイルスの対策のガイドラインを作成・公表してから、既に3か月を経過することになるが、この間、農林漁業関係者の感染者が本当に少なくて良かったと思っている。これも各地域の農政局職員の指導と努力の賜であり、感謝申し上げます。また、同時にCSFの発生というのもあり、二重の苦労があったかと思う。これから夏に向かって、新型コロナウイルス感染拡大の第2波、第3波の可能性もあり、また、自然災害も予想される。今後も気を引き締めて頑張ってもらいたい。

<加藤副大臣>

今国会は、豚熱から始まり、コロナ対策等、本省の皆さん、そしてまた地方局の皆さん、大変なご苦勞と御協力をいただいたことに心から感謝を申し上げたい。コロナや豚熱の感染の再拡大、大雨・台風等の自然災害など、今後またどういった災害が起こるか分からないような状況なので、引き続き皆さんには頑張っていたいただきたいと思う。

また、今回の支援策を現場に届けるというのが、農林水産省の第一の使命だろうと思うので、現場に周知し、一日も早く現場に届くよう皆さんの御協力を願います。

以上